

ふくせん岡山県ブロック活動報告

ハンドル形電動車椅子の安全利用のための研修会を開催

去る 10 月 24 日、ふくせん岡山県ブロックは、『ハンドル形電動車椅子の安全利用のための研修会』を開催。本研修は、岡山県では初の取り組み。高齢者が安心して外出できる交通手段の一つとして電動車椅子がある。電動車椅子には、ハンドル形やジョイスティック形など、複数ある。

その複数の中から、高齢者利用で増えているハンドル形の電動車椅子を中心に様々な取り巻く課題と現状の制度と岡山県内の状況を学び、県内の福祉用具専門相談員と共有を図った。

電動車椅子は、歩行に困難を感じる高齢者にとっての移動手段や自動車運転免許を返納した後の代替移動手段として近年広く普及しつつある一方、全国的に重大事故が起きていることも事実である。

電動車椅子は運転免許の取得が不要で、近距離の移動で便利な反面、高齢者の利用が多く、自動車との衝突事故や利用中の転倒・転落などに加え、他の歩行者に接触するなど様々なリスクも生じている。また、身体状況や認知機能は利用者によっても大きく異なるため、福祉用具専門相談員には利用者が安全に利用できるかどうかの評価、導入時の丁寧な操作指導、経路の確認や事故事例の説明等を行うことが求められています。

そこでふくせんが行った令和 2 年度老健事業「ハンドル形電動車椅子の安全利用に係る調査研究事業」（以下：令和 2 年度老健事業）で作成した「ハンドル形電動車椅子の貸与実務における安全利用のためのガイドライン」と「ハンドル形電動車椅子の貸与実務における安全利用のための指導手順書」を活用し、下記カリキュラムで研修を開催した。 ※この研修は全国各地で開催している。

講義 1 社福) 兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立リハビリテーション中央病院 部長(教育・連携担当) 長倉 寿子	福祉用具の安全利用に関する福祉用具専門相談員の役割
講義 2 岡山県警察本部交通部交通企画課 警部 板野 順一	電動車椅子の安全利用について
講義 3・4 一社) 全国福祉用具専門相談員協会 岡山県ブロック長 三好勇輝 協力: (株)ヤマシタ岡山営業所所長 岡村英樹	電動車椅子の事故状況と福祉用具専門相談員によるリスクマネジメント ハンドル形電動車椅子 対象者の実際・導入時の面談
演習 一社) 全国福祉用具専門相談員協会 岡山: ブロック事務局 協力: WHILL(株), フランスベッド(株), (株)セリオ	ハンドル形電動車椅子の貸与実務に関するペアワーク ・ハンドル型電動車椅子の機能 ・利用者、家族への操作指導

【講義 1】

ふくせんの令和 2 年度老健事業と、日本福祉用具供給協会による令和 4 年度老健事業「介護保険における福祉用具の利用安全及びサービスの質の向上に資する事業所の体制を強化するための調査研究事業」の調査報告内容を交え、本研修の電動車椅子の導入に限らず、その他の福祉用具貸与・販売に対しても、安全に利用できるよう支援することが福祉用具専門相談員に求められていると。



講義 1 講師: 長倉寿子氏



【講義 2】

岡山県警察本部交通安全企画課板野氏による「電動車椅子の交通事故防止」と題した講義。

岡山県内での電動車椅子が関係する事故の件数や、どのような場面での事故が多いかなど発生状況



講義2 講師：板野順一氏

の説明に加え、夜間走行の見え方など、自動車運転者からの見え方等、交通事故としての視点、交通ルールの再確認など電動車椅子を利用される高齢者への説明や確認など福祉用具専門相談に向けて継続的にお願いしたいと要望された。

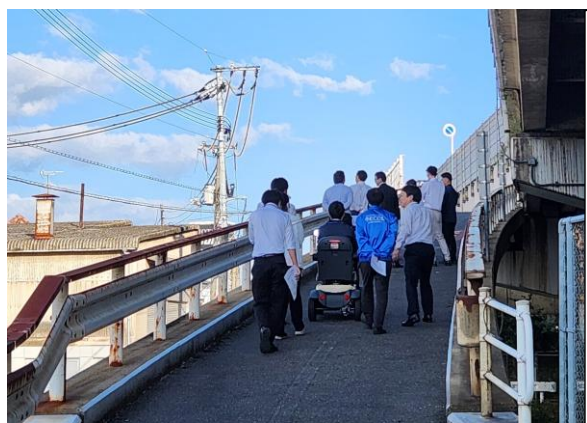


【講義3・4】

直近の「福祉用具に係る重大製品事故」から、電動車椅子を中心とした事故情報について、受講者に対し改めての注意喚起と、福祉用具サービス計画の「利用計画」の書式にある「留意事項」への状態・状況に合わせた記載の徹底について説明をし、続いてハンドル形電動車椅子の貸与実務に関するロープレ・実技を行った。



講義3・4: 左)三好勇輝氏と岡村英樹氏 右)岡村英樹氏



演習の模様

研修参加に感謝申し上げます。

(有)福祉の店アイコー、(株)アイルリンク
赤城医科器械(株)、岡山リハビリ機器販売(有)
(株)KUNPU ケアサプライ、(株)トーカイ
日本基準寝具(株)、平松エンタープライズ(株)

運営協力に感謝申し上げます。

(株)アイルリンク、(株)セリオ、フランスベッド(株)
(株)ヤマシタ、(株)リョーキ、WHILL(株)
引き続きよろしくお願いいたします。

【ふくせん岡山県ブロック長 三好より】

今回、初めて岡山県においてハンドル形電動車椅子の安全利用のための研修を開催しました。全国各地で開催しておりますが、今後は岡山県でも毎年開催できればと思います。このような研修を開催しても事故は起こるかもしれませんが、1件でも事故を減らす為、提供する側の責任として利用者への説明はもとより他職種への情報発信の必要性和岡山県警との連携も必要であると認識できた研修となりました。これからも、地域にいる「ふくせんスーパーバイザー(SV)」はもとより、各事業所の福祉用具専門相談員による研鑽の場を増やし、福祉用具専門相談員の資質向上に努めていきたいと思っています。今後も様々な研修でその知識と経験を存分に発揮していただきたいと思っています。来年度はハンドル形に限らず『安全』の範囲を広げた研修の開催を考えています。岡山県の皆様、一緒に地域で活動しませんか？ 地域活動でお会いできることお待ちしております。